

第2分科会 —外から見たTKC—税務署OB会員に聞いちゃおう!

第2分科会で開催されたパネルディスカッションのテーマは「—外から見たTKC—税務署OB会員に聞いちゃおう!」。伊藤公一会員(北陸会)、宇高照二会員(九州会)、小澤稔会員(静岡支部)の3人をパネリストに、稲葉孝会員(静岡支部)のコーディネイトで進行した。税務調査の選定のポイントや、TKC会員事務所と他の会計事務所との違いなどについて意見が交わされた。

務の積み重ねが重要になります。書面添付をしているところは、初めから調査対象から外してしまいましたので、つけていない法人は調査の対象になる可能性が高いと思います。

—TKC会計事務所と他の会計事務所
所で違いはありましたか。

伊藤 TKC会員だからといって特別な目で見られたことはありません。ただ、実際に調査していくなかで、堅い仕事をする先



TKC会員事務所の強み、特徴について意見が交わされた

—税務調査の選定のポイントについてお伺いします。

小澤 税務署の1年間の流れを把握しておく必要があります。特に重要なのは毎年8月頃に行われる「統括官等会議」。ここで重点的に調査する業種などが決められます。現金商売をしているところは調査の対象になりやすい傾向にあります。

宇高 単年度ではなく3年間の推移から、今年は粗利が異常に少ない、経費が非常に大きいなど、特に異常値に着目します。

伊藤 ルーズな会計事務所もしっかりマークしていますので、日々の正確な業

生が多いという感覚は持っていました。

宇高 TKC会員は非常に真面目な印象です。適正な申告書の作成はもちろん、書面添付や電子申告などにも積極的に取り組んでいます。

小澤 結局、個々の税理士の意識の高さの問題です。TKC会員は、基本的に関与先のことを第一に考えています。そして、不正・脱税の要因である遡及ができないシステムであることも大きな信頼ですね。

—書面添付などに積極的に取り組み、TKC会員だから調査に行きたくないと思ってもらえるようになりたい。それがTKCブランドを高めるということだと思います。